

島牧村「賀老高原」での植樹会参加と島牧農業

1、はじめに

いつも思うのですが、島牧村にはいとホットします。なぜだろう。喧噪たる都会ではなく、中途半端な街でもなく、まだ私達の心に残る「ふるさと」があるからだろう。そんな「森(山)・川・海」の島牧村から6月15日(水)開催の「2011 国際森林年・植樹会(主催：島牧村・共催：後志森林管理署)」の案内がありました。昨年も技術士会から3名参加しています。

植樹会後の午後は島牧村の農業について農家有志との情報交換会をすることにしました。地域産業研究会として後志3町村(黒松内町・島牧村・寿都町)をフィールドに産業研究活動を10年来続けてきていますが、島牧村については詳しくお話を聞くことがありませんでした。今回の情報交換会を機会に、今後の産業研究へのあしがかりとすることにしました。地域産業研究会からは板垣恒夫と須川清一が参加しました。

2、植樹会

“島牧村「森・川・海づくり」植樹会”は10時から島牧村字賀老(賀老高原)で行われました。賀老高原



写真-2 植樹風景

は東狩場山の裾野に広がる標高300m～500mの高原台地です。今回の植樹会々場はかつて、ジャガイモ畑であったところですが、現在は原野に戻ってしまったほぼ1haの平坦地です。

曇り空のなか、山田康次産業課長の司会で植樹会が始まりました。まず、藤澤 克村長から、今年は国際森林年であること、将来を担う小学生の皆さんが参加したこと、そして「森・川・海」の連携により豊かな海造りに繋がる大事な行事であることなどのご挨拶がありました。植樹に先立って、後志総合振興局の空 則明林務課主幹による小学生(島牧小学校3年生12名)への植樹指導がありました。今回の参加者は66名で、島牧村役場関係以外では、後志森林管理署(入口了署長他3名)、後志総合振興局(佐藤嘉己森林室長他2名)、黒松内町役場、南



写真-1 ご挨拶の藤澤 克村長



写真-3 植樹会参加者一同

後志森林組合、技術士会地域産業研究会、黒松内岳ブナ再生プロジェクト、島牧漁業協同組合、島牧小学校、島牧慈光園、等でした。

3、島牧村の農家の皆さんと

午後からはまず、無農薬米生産農家の波多野信夫さんの案内で字千走の水田農家の熊谷信夫さん宅を訪ねました。熊谷さんは水田と野菜畑合わせて6haを所有しています。ハウスではキュウリ・トマトを栽培していました。水田は田植えの終えた時期で、のどかな田園風景にひたりました。

13時30分過ぎに字泊の島牧村農業協同組合事務所で「技術士会地域産業研究会と島牧村農家有志との情報交換会」が始まりました。参加者は、波多野信夫さん、山田康次さん(島牧村産業課長)、木元洋一さん(農産物加工業)、熊谷信夫さん(水田農家)、菅原 徹さん(果樹栽培農家)、板垣恒夫・須川清一(地域産業研究会)の7名です。



写真-4 勉強会の様子(司会：波多野さん)

用意された話題は、1) 島牧村農業の現状、2) CAS 冷凍技術による山菜の商品開発、3) CAS 冷凍の農業への可能性(農業の6次産業・島牧農産加工グループ)、4) 無農薬農業への取り組み(全国組織「なずな」との連携・小学校との田園授業)、5) 生物多様性、原発事故後の時代要請と島牧農業(里山農業)、6) 栽培、販売現地見学(熊谷農園・道の駅)です。

島牧村の農業の現状については、山田課長から説明があり、農地面積152ha、農家数39戸でした。水稻が24haほど作付けされ、ほかに馬鈴薯や野菜などが作付けされていました。

表-1 農地経営面積・農家数地区別一覧(30a以上)

地区名	地 目			農家数	面積(m ²)
	田	畑	採草地		
本 目	0	9,000	980,000	3	989,000
豊 浜	0	3,000	0	1	3,000
永 豊	14,350	38,050	0	7	52,400
泊	30,670	65,372	0	14	96,042
豊 平	15,020	24,980	0	1	40,000
江ノ島	5,960	500	0	2	6,460
千 走	77,300	80,690	0	4	157,990
元 町	99,060	16,040	60,550	7	175,650
合 計	242,360	237,632	1,040,550	39	1,520,542

CAS 冷凍の農業への可能性については、農産物加工業の木元洋一さんから説明があった。CAS 冷凍は山菜・野菜・魚などを旬のまま真空パック冷凍し、解凍後もそのままの味が保証できる冷凍技術です。島牧農山加工に期待され、導入の方向が検討されているとのこと。無農薬農業への取り組みは、波多野信夫さんが長年取り組んできた「無農薬米(榎里の俵米)・無農薬アスパラ」などで、循環農法を目標に栽培しているとのこと。果樹栽培では、サクランボを手がけている菅原さんが、伊達市の気温に匹敵していて、良くできるとのことです。

島牧村は、豊かな自然の中で山菜や農産品、水産品に恵まれているが、市場からの距離が遠いと言う課題があります。CAS 技術は、鮮度を保ちつつ長期間保存できる技術で、近年利用コストが低下しており、今回のリースによる試験加工は補助金を活用して行われていました。また、道の駅でのトラック市など村と関係者が協力して新しい取り組みがはじまっていました。

今回の情報交換会を通して感じたことは、「よその」の知恵も活用して頂ける機会があるように思いました。

4、おわりに

「森・川・海」の連携による豊かな海造りに繋がる大事な植樹会は今年で5回目になります。来年も情報交換会(農業・漁業)とのセットで参加したい。

島牧村の農業については、ほんの少しですが、問題点が見えてきたようです。解決へのキーワードは出されたかと思います。技術士からのアドバイスが期待されています。